

やりがいのある仕事でにぎわうまちづくり

「みんながやりがいを感じられる仕事に励むことで活性化するまち」を将来像に据え、所得向上、後継者の育成、産業基盤の整備、食の魅力向上など、農林水産業者や商工業者等への継続的な支援によって、経済と産業の持続可能な発展をめざします。

また、山と海の潜在力を引き出す観光地域づくりを進めるとともに、企業誘致や起業支援などを通じて、多様な働き方とまちで働くことに意欲的な人が増える、にぎやかなまちの実現を図ります。

施策07 一次産業にあこがれる人を増やそう

施策08 自然の恵みを活かして「大山町の顔」をつくろう

施策09 資源や人のつながりで観光や商工業を盛り上げよう

施策10 若者や女性も働きたくなる仕事を増やそう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p>	

07 一次産業にあこがれる人を増やそう

【 施策の目的 】

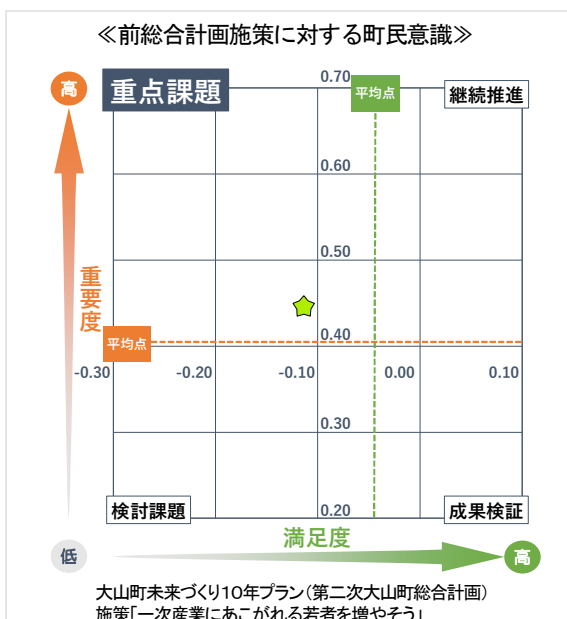
一次産業はやりがいがあると実感できるまちに向けて、恵まれた自然資源と従事者を守り、育て、持続可能な産業支援を行い、生業として選ばれる一次産業の実現をめざします。これまで培ってきたノウハウ、町内のつながりを活かしながら、まちの強みとなる農林水産物の価値を高め、よりもうかる一次産業への支援に取り組みます。

【 現状と課題 】

大山の裾野に広がる肥沃な土壌とその養分に恵まれた漁場など、豊かな自然に恵まれた大山町の一次産業は、農業では水稻をはじめ、野菜、果樹、畜産物などが県下有数の生産量を誇っています。林業では町の約60%を占める森林を守り、育て、水産業では県下でも有数の漁獲量・漁獲高を誇る沿岸漁業の主力基地を有しています。そのため、大きな規模で一次産業を展開する専業の人も数多く、それぞれ生産支援や基盤整備に対する支援等を行ってきました。

一方で、いずれの産業も従事者の高齢化や後継者不足に直面しており、耕作放棄地の増加や森林の放置が課題となっています。また、気候変動による水産資源の減少や、すでに農業用水路等の管理が限られた人へのしかかっており、大雨による水路破壊なども含めて、生産基盤が機能不全に陥りかねないなどの課題もあります。新たな従事者に対する周りの従事者や地域の支えのほか、大規模経営者を基幹としながら小規模経営者を下支えるなど、地域全体で持続的な一次産業としていくことが大切です。

これらに対して、機械化・省力化など負担軽減や地域資源の保全や育成への取組、一次産業従事者へのさまざまな支援など、まちの魅力ある産業を維持・発展させていくことが必要です。また、一次産業や生産基盤を維持していくためには、まち全体の理解を深めることも大切です。





【 取組方針 】

1 もうかる一次産業を実現する

- ① 生産組織の生産向上や研究・実証実験への支援、就業相談会や長期研修など、新規就業者の定着を支援するとともに、技術の伝承等による後継者育成に力を入れ、一次産業の経営基盤を強化し、生産活動を支える人材の確保・育成を図ります。
- ② 次世代を担う就業者が円滑に経営を開始し、安定した経営を早期に行えるように、スマート農業⁵⁹・水産業の導入、DX⁶⁰の推進による収穫量・漁獲量の増加や作業負担の軽減を実現することで収益性を高め、「もうかる一次産業」のイメージを広げていきます。
- ③ 農業の持続的発展を図るため、規模拡大と営農維持に意欲的な担い手に対して、農地の集積・集約化など経営の大規模化、法人化による生産性の向上を支援します。安定した収益の確保と安心して営農できる環境を整え、地域の一次産業の振興につなげます。
- ④ 町内の農地を、将来も農地として残し、活かし、耕作し続けるために、地域計画に基づき、遊休農地の発生防止・解消を図り、町外の個人や企業の新規参入を促す取組を進めます。

2 大山町ならではの強みを生み出す

- ① 大山町は豊かな自然環境に恵まれ、ブロッコリー、白ネギ、梨を代表とする農産物、サザエを代表とする魚介類の産地として大きな強みを持っています。また、水稻や芝、畜産や酪農などの生産拡大と基盤強化を図ることで、持続可能でもうかる産業へ移行し、若手生産者のやる気を引き出します。

3 無理せず一次産業を続けていくことができる環境をつくる

- ① 大規模な施設整備や機械を導入するときなど、担い手に必要な支援を行い、生産基盤の強化、農林漁業生産額の向上をめざします。
- ② 大山町鳥獣被害防止計画に基づき、鳥獣による農林水産業等に係る被害防止を行います。
- ③ 関係機関と連携し、農業者年金への加入促進を図り、一次産業従事者の生活の安定につなげます。

4 生産基盤を充実させる

- ① 農林水産業の発展のため、生産性の向上、担い手の育成と確保をしやすい環境づくりをめざし、優良農地の保全、農業用排水路・農道、漁港施設などの生産基盤の機能強化と長寿命化を図ります。
- ② 地球温暖化の影響で海水温の上昇が続き、魚介類の分布域も変化する中で、藻場の衰退が加速しているため、環境変化に適応し生産力を持った藻場の再生を行います。また、藻場の回復を通じて、二酸化炭素吸収量の拡大にもつなげます。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
出前授業・収穫体験の年間開催数	学校での一次産業に関する出前授業・収穫体験の年間開催数	回	8 [R6]	10 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす
一次産業研修生の数	新規の農業水産業研修生の延べ受入人数	人	8 [R6]	35 [R15]	近年は数値にばらつきがあるが、年間3人以上の研修生の受入れをめざす
農地中間管理事業による農地集積面積	大山町内の農地を農地中間管理事業を活用して担い手等に集積されている農地面積	ha	1,773 [R6]	2,376 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす
遊休農地の解消面積	大山町内の農地に存在する遊休農地の解消面積単年度目標面積	ha	21 [R6]	22 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす
農業産出額	1年間に生産した農産物の産出額	千万円	996 [R5]	1,030 [R15]	増加傾向の中で、当初値以上をめざす

【 関連計画 】

- ・地域計画 ・大山町農業振興地域整備計画 ・大山町農業経営基盤強化促進基本構想 ・大山町鳥獣被害防止計画
- ・大山町ヌートリア・アライグマ防除実施計画書 ・大山町酪農・肉用牛生産近代化計画書 ・大山町森林整備計画
- ・特定間伐等促進計画 ・農地等の利用の最適化の推進に関する指針・大山町農業の有する多面的機能の発揮に関する計画

⁵⁹ ロボット技術やAI、ICTなどの先端技術を活用し、省力化・生産性向上、品質向上、環境負荷低減等をめざす農業の形。

⁶⁰ デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略。デジタル化によって得られたデータを活用し、組織やビジネスモデル全体を根本的に変革すること。

08 自然の恵みを活かして「大山町の顔」をつくろう

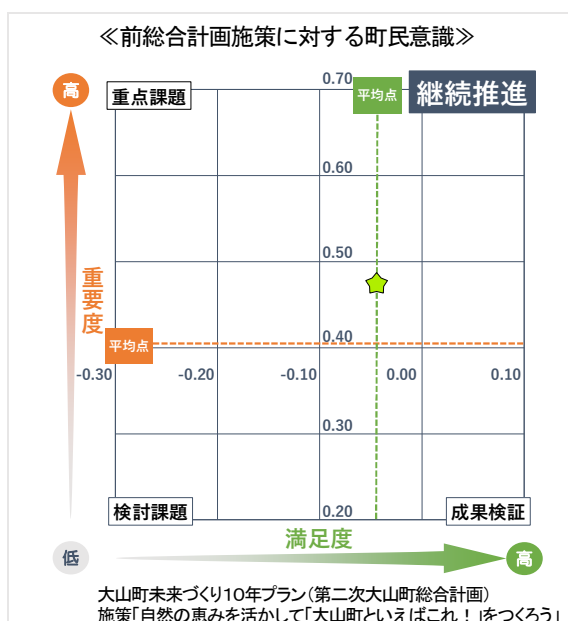
【 施策の目的 】

大山の恵みを受けた町内の農畜水産物の素材のおいしさにさらなる付加価値を生み、加えて素材の良さを活かした商品の開発、支援、情報発信などに取り組み、町内外で広く親しまれる「大山町の顔」となる特産品を通じて、まちの食の魅力向上と産業振興に取り組みます。

【 現状と課題 】

町内の農畜産物や林産物、海産物は、地域内ではそのまま楽しむだけではなく、それらを加工・調理する独自の食べ方でも楽しまれ、その食文化が受け継がれてきました。平成19年に設立された一般財団法人大山恵みの里公社をはじめとして、町内産品の価値を高め、流通を拡大させ、商品力を強化する取組が進められてきました。令和3年度には、「大山おこわ」が文化庁の100年フード⁶¹に認定され、かつての大山牛馬市で親しまれた「大山そば」など、歴史的な背景から生まれた食文化が現在も息づいています。

一方で、農林水産物の加工品のブランド化はまだ十分とはいえず、大山町として地域で誇れる商品を生み出すために、素材となる農林水産物の生産拡大や安定的な資源確保を継続して進めるとともに、高付加価値を生み出し、町内の特産品として認識されるような取組が必要です。また、それらを生み出す加工施設等の環境整備や地産地消の仕組みの強化など、関係機関との連携強化が必要です。



⁶¹文化庁が認定する食文化の制度。多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を100年続く食文化「100年フード」と名付け、文化庁とともに継承していくことを目指す取組。



【取組方針】

1 地域食材と大山ブランドを活かして食の魅力を伝える

- ① 堆肥や緑肥の施用、耕畜連携による資源循環を通じて、化学肥料や農薬の使用量を低減し、環境に配慮した取組などにより、付加価値のある農水産物で食の魅力向上をめざします。
- ② 大山町産農林水産物の魅力を広く発信するため、効果的なマーケティング⁶²戦略を進め、より多くの人に大山町の食材の魅力を伝えます。大山町の農林水産物を活用した6次産業化や農商工連携を進め、農林漁業者等の所得向上と地域経済の活性化を図ります。
- ③ 大山の恵みである農林水産物や大山町ならではの食文化を活かした商品開発、販路拡大に貢献するため、関係団体等の取組を支援します。

2 食べる場所とつくる場所を活用する

- ① 地域食材を使用したメニューの開発など、関係機関等とも連携し、まちの食の魅力を体験できる場所の充実を図ります。
- ② 既存施設を活用し、農水産物の付加価値向上と特産品の研究開発等を行う団体を支援します。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
日本遺産関連商品の開発数	日本遺産の認定ストーリーや構成文化財を活用したお土産物・旅行・体験商品やサービスの数	個数	15 [R6]	27 [R15]	増加傾向の中で、当初値以上をめざす
道の駅(物販、食堂)における売上高	道の駅(物販、食堂)の売上高	万円	16,119 [R6]	20,000 [R15]	増加傾向の中で、当初値以上をめざす
旧逢坂農産物処理加工所における年間利用回数	施設の年間利用回数	回	64 [R6]	70 [R15]	近年は数値にばらつきがあるが、当初値以上をめざす

⁶²顧客のニーズを満たす商品やサービスを提供するための企業活動全般のこと。

09 資源や人のつながりで観光や商工業を盛り上げよう

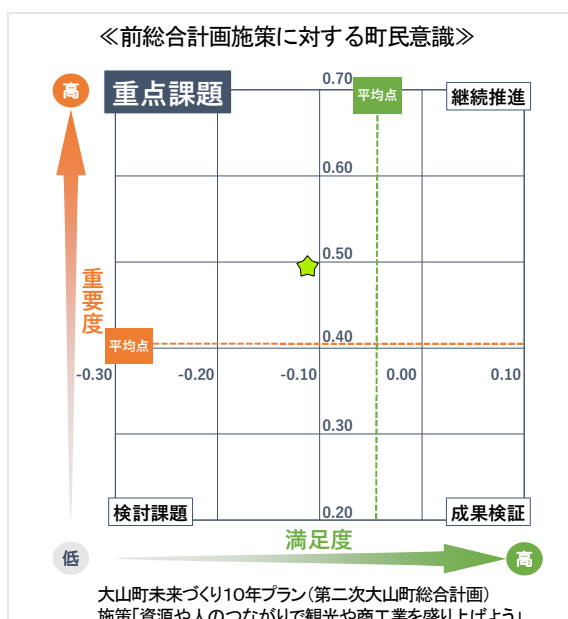
【 施策の目的 】

海から山まで表情豊かな自然資源と、まちを盛り上げようと取り組む人や企業・団体など、数多くの資源と力をつなげ、連携し、各資源のいいところを掛け合わせた魅力的な観光地域づくりに取り組み、年間を通じて多様な観光客が訪れ、交流人口が増えていくまちをめざします。さらに、消費者に魅力を感じてもらえる商店づくりや、多様化する消費者ニーズへ対応するため、商工業の経営基盤の体質強化と設備改善、技術水準向上・強化などの支援に取り組みます。

【 現状と課題 】

大山町には、豊かな自然環境や農林水産業の産業資源のほかにも、日本遺産や史跡、伝統的建造物群保存地区等や国・県・町指定文化財などの歴史的資源、まちの資源を活かして楽しさを生み出す人などの人的資源といった豊富な魅力があります。これまで、これらの資源を結び付け、大山観光のシンボルである大山を中心とする観光や地域に密着した商工業の活性化に取り組んできました。

しかし、まちの観光を担う組織の人材不足や地域に根差した小売店の減少により、にぎわいの喪失や日常生活の利便性の低下が大きな課題になっています。特に高齢者にとっては身近な商業は欠かせないものです。人口減少が見込まれる中では、町民の消費だけで産業を維持していくことには限界があり、交流人口と関係人口も巻き込み、地域外からの消費を町内産業へと循環していく仕組みを構築していく必要があります。観光・商工業への支援を継続するとともに、まちのあらゆる資源を活用・発掘し、若者や訪日外国人旅行者など相手に合わせた効果的な情報発信や、あらゆる産業とも連携しながら、まちのにぎわいを生み出すことが必要です。





【 取組方針 】

1 地域の資源や人のつながりを観光に活かす

- ① 大山観光局 (DMO⁶³)や関係団体と協働して、大山町観光基本計画を策定することで、大山町の観光振興の方向性とビジョンを共有し、観光によって稼ぐことができるまちをめざし、豊かな自然・食・歴史・文化を活用する観光地域づくりに取り組みます。
- ② 観光地域づくりにおいて、住民や事業者が地域に愛着や誇りを持ち、参画していくことを促すことが大切です。そのためにも、大山町の魅力を町内外に積極的に発信します。

2 大山町内で消費が生まれやすい環境をつくる

- ① 大山町が有する自然・食・歴史・文化を観光資源として活用し、体験交流を主軸としてさまざまな主体が提供する観光プログラムの充実を図ります。
- ② 大山観光局 (DMO)等を通じ、町内外の人的資源を活かし、観光プログラムを提供できる人材や体験指導者の発掘・育成を支援します。
- ③ 環境省と連携した国立公園における滞在体験の魅力向上など、この地を訪れる方の満足度向上につながる取組を進めます。

3 いつも楽しいことがおこっている大山町を実現する

- ① 海と山が近い大山町の特徴を活かした観光地域づくりを大山観光局 (DMO) 等と協働して進め、スキー場のグリーンシーズン活用や、海側の観光振興にも引き続き取り組み、海から山まで楽しめるまちを実現します。
- ② 観光情報を収集・発信するとともに、各メディアを活用して、ターゲットに合わせた積極的な情報の発信・提供に取り組みます。
- ③ 既存の観光施設を適切に維持管理し、利用環境の維持・利用者の満足度向上に努めます。

4 経営基盤の安定と経営体質を強化する

- ① 経営基盤の安定と経営体質を強化するため、商工会の経営指導と連携し、経営の改善を進めるため、制度金融の充実と活用を促進します。
- ② 経営指導支援、人材育成、講習会の開催など活動の充実を図るため、商工会等を支援します。
- ③ 商工会への支援を通じて、専門分野の研究開発や技術開発・高度化の支援をします。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
町内旅行消費額	大山観光局 (DMO)が独自の算出式を用いて算出した町内旅行者の町内での年間旅行消費額	百万円	3,960 [R6]	6,200 [R8]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす

【 関連計画 】

- ・大山町観光戦略
- ・大山寺地区上質化推進基本計画
- ・大山町観光施設事業経営戦略
- ・(先端設備等)導入促進基本計画

⁶³Destination Marketing/Management Organization の略。地域の観光資源を最大限に活用し、観光客を誘致して、地域経済を活性化させるための「観光地域づくりの司令塔」となる法人。

10 若者や女性も働きたくなる仕事を増やそう

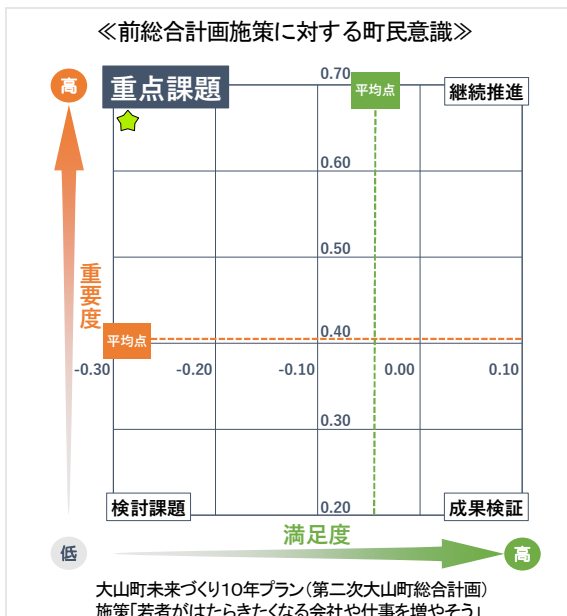
【 施策の目的 】

それぞれの人が生き方や働き方にあった仕事を選択できるよう、企業誘致、起業支援、産業支援など、さまざまな支援によって、大山町で暮らすこと、働くことに意欲的な人たちの喜びにつながるまちをめざします。そのためには、暮らしの安定につながる仕事の選択肢を増やし、仕事による自己実現を支え、さらには仕事を通じた地域貢献につながるよう取り組みます。

【 現状と課題 】

大山町では、町内に魅力ある仕事を生み出していくため、企業誘致や若者の雇用の場の確保、あらゆる産業の支援などを積極的に進めてきました。高速道路網の整備や情報通信基盤の整備が進み、工業団地への企業進出が進みました。町内での仕事の選択肢も増えている一方で、地域に密着した産業の後継者不足や消費活動の衰退という状況もあり、地域の産業を維持・発展させていくための課題が残ります。

地方での暮らしの課題とされる仕事には、雇用の数だけでなく、それぞれの人の生き方や働き方にあった仕事の選択肢が求められています。若者や女性、多くの人々がやりがいを感じられる仕事の選択肢を増やし、さらには地域経済が循環することで、地域に密着した既存の産業もまた仕事の選択肢となる好循環が必要です。また、既にあるまちの多くの仕事と働き方の魅力を町内外に発信し、大山町で働きたい、暮らしたいと思う若者・女性をはじめ、多くの働きたい人を支援することが大切です。





【取組方針】

1 若者や女性も働きたくなる企業を誘致する

- ① 雇用を生み出すだけでなく、若者や女性も働きやすい企業や町民生活にも利益のある企業、大山町の豊かな自然環境などの魅力を伸ばし、相乗効果が生まれるような企業の誘致に取り組みます。
- ② 情報通信環境を活かして就業できる業種の進出につながるよう、就業場所や生活環境など総合的な相談・支援体制を整備することにより、地方で活躍できる業種を増やし、職業選択の幅が広がるよう努めます。

2 進出企業の支援と連携を強化する

- ① 進出企業の活動等を支援し、企業の発展と企業従業員等の活性化を図ります。

3 地域の人材が活躍できる環境をつくる

- ① ハローワークや商工会等と連携し、創業を含めて地域の人材が活躍できるきっかけを生み出していきます。

4 町外の人材の挑戦を受け入れる

- ① 町外の人材を地域おこし協力隊として任用し、隊員の思いと地域課題の解決を合わせた地域協力活動を通して産業発展を進めます。地域の未来をつくるひとつづくりの意識を持ち、隊員の特徴に応じた支援体制の充実を進めます。
- ② 外部人材の視点やノウハウを活かし、地域内の産業や行政運営に効果的な助言等を行う仕組みの活用を図ります。

5 大山町で働きたい若者を支援する

- ① 就職促進と移住定住促進のための奨学金の返還を支援し、奨学金返還支援の対象業種を拡大することで、多くの若者がIJUターン⁶⁴できる環境づくりを進めます。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
創業件数	大山町商工会が把握している創業件数	件	4 [R6]	6 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす
大山町未来人材育成奨学金の支援者数	大山町未来人材育成奨学金支援助成金を活用した人の数	件	4 [R6]	10 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値以上をめざす

⁶⁴ Iターンとは、生まれ育った場所で働いたのち、出身地ではない場所へ移住して働くこと。Uターンとは、生まれ育った場所以外で働いたのち、再び生まれ故郷に戻って働くこと。Jターンとは、地方出身者が一度都会で就職し、地元から近い都道府県や市町村に移住して働くこと。